

眼瞼下垂と頭の病気

まぶたが下がるという眼瞼下垂は、いろんな原因で起きる。そして、その多くは、脳や神経の病気とは無関係である。というのに、81歳のMさん。左のまぶたを手で持ち上げながら、「私のまぶたが下がるのも、頭の「ワジ」病気のせいですか？」と深刻である。さては、この人も、先週のコラムで眠れぬ夜を過ごしたか。としたら「コメン」。

確かに、Mさんの左眼は、眼瞼下垂のせいで小さく見える。だが、瞳孔（黒目）の大きさに左右差はない。また、目の動きにも異常はなく、ものが二重に見える複視もないのだ。

もしも、眼瞼下垂が頭の病気による動眼神経麻痺の症状なら、まぶたが下がるだけではすまない。眼瞼下垂と同じ側の瞳孔が大きくなる。で、まぶたく見えたり、かすんだりする。また、眼の動きが悪くなる。複視がみられる。それは、動眼神経には、開眼だけではなく、瞳孔の大きさを調整したり、眼球を動かす働きがあるからである。

ならば、Mさんの眼瞼下垂は、原因としては「一番多い」加齢「によるものではないだろうか。若い人なら、コンタクトレンズの長期使用などでも起きるという。が、神経とはまったく関係ない。まぶたを上げる筋肉や腱膜が延びたり緩んだりするせいである。

ところで、動眼神経麻痺の原因で「一番多い」のは、糖尿病などによる微小血管障害である。ある統計によれば、微小血管障害が42%に対し、脳腫瘍は11%、脳動脈瘤は6%に過ぎないという。

繰り返す。眼瞼下垂があっても、原因が脳動脈瘤や脳腫瘍などの頭の病気によることは、ごく稀なのである。だが、それらは、発見が遅ければ致命的な病気である。眼瞼下垂だけではなく、まぶたくてもものが二重に見えるなどの症状があれば、必ずMRI（磁気共鳴画像）検査を受けてほしい。

（石黒修三）いしほろクリニック・脳神経外科医・5/30北國新聞掲載）